

例 言

1. 本書は、埼玉県入間郡大井町内に所在する遺跡群の1998年度の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査および整理作業は、国庫（3,650,000円）、県費（1,825,000円）の補助金の交付を受け、平成10年4月3日から平成11年3月31日まで実施した。
3. 調査組織

調 査 主 体 者	大井町教育委員会	文化財保護係長	坪田幹男
担 当 課	生涯学習課文化財保護係	文化財保護係・庶務	高橋偕子
教 育 長	遠藤正明	文化財保護係・発掘調査担当者	高崎直成・鍋島直久
生涯学習課長	仲野政男	大井町臨時職員・発掘調査補助員	土本医
4. 本書作成にあたっての作業分担は次のとおりである。
 執 筆：縄文土器 今井堯、本文・遺構 高崎直成
 土器・陶磁器実測：青山奈保美、石垣ゆき子、石原聡、高橋けい子、丹治つや子、山口妙子
 石器実測：石原聡、高橋けい子 土器拓影：石垣ゆき子、植田勢津子、高橋けい子、山口妙子
 土器復元：中田藤子 トレース：青山奈保美、小林登喜枝、須藤さち子、 表作成：植田勢津子
 図版作成：青山奈保美、石垣ゆき子、須藤さち子、高橋けい子、中田藤子、山口妙子、丹治つや子
 遺構写真：坪田幹男・高崎直成・鍋島直久・土本医 遺物写真：高崎直成
 土器・石器実測の一部を（有）文化財COMに委託した。
 また、整理作業のなかで日本考古学協会の今井堯氏の援助と協力を得た。
5. 各遺跡の調査から報告書刊行にいたるまで下記の諸氏・機関より御指導・ご協力を賜った。（敬称略）
 会田昭明、浅野晴樹、穴澤義功、天ヶ嶋岳、荒井幹夫、市丸靖子、内田賢司、岡田憲治、小澤千恵子、加藤秀之、梶原勝、梶原喜世子、神木繁嘉、國見徹、隈本健介、小出輝雄、駒井和久、桜井信枝、笹森健一、佐藤啓子、島田一郎、高橋京子、田中信、中島宏、塚田政子、原口雅樹、早坂廣人、松本新八郎、松本富雄、水村孝行、柳井章宏、柳沢健司、和田晋治
 埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課、東久保土地区画整理組合、大井町立郷土資料館、大井町遺跡調査会、（有）文化財COM。
6. 発掘調査ならびに整理作業参加者は下記の皆様である。記して厚く感謝の意を表したい。
 〈発掘調査参加者〉（敬称略）
 新井和枝、荒井美奈子、飯塚泰子、石原聡、井上晴江、海老原サナエ、大曾根キク子、笠原英子、金子君子、金丸文男、小林こずい、酒井昭、佐久間ひろ子、篠崎忠三、鈴木英子、鈴木エミ子、関田成美、高木千恵子、戸澤竹二、中嶋末子、野岡由紀子、野沢松代、林きぬ子、比嘉洋子、三村美代子、若尾久美子、若林紀美代
 〈整理作業参加者〉（敬称略）
 青山奈保美、石垣ゆき子、石原聡、植田勢津子、小林登喜江、須藤さち子、高橋けい子、丹治つや子、中田藤子、山口妙子

凡 例

1. 本書の遺構・遺物挿図の指示は以下のとおりである。
 - (1) 縮尺は原則として
 遺構配置図 1:300 遺構平面図・遺物出土状況図 1:60、1:30 炉などの詳細図 1:30
 土器実測図 1:4 土器拓影図 1:3 石器実測図 1:3、2:3 銭 1:1
 - (2) 遺構断面図の水糸高は海拔高を示す。明記していないのは同図版中の前遺構の海拔高に同じ。
 - (3) 遺構図における screen-tone の指示、遺物出土状況のドットの指示。
 攪乱 地山（ローム） 焼土
 土器 ● 石器 ★ 黒曜石・チャート ▲ 礫 ○
 - (4) 土器実測図における screen-tone の指示。
 地文縄文 撚糸文
 - (5) 土器断面図は、「」が繊維含有、●が雲母粒を含有する縄文土器を表わしている。
2. 住居跡名は、遺跡内の通し番号にしている。
3. 本報告にかかる出土品及び記録図面・写真等は一括して大井町教育委員会生涯学習課に保管してある。

	遺 跡 名	申 請 地	面積 (㎡)	原 因	試 掘 期 間	調 査 措 置
36	浄禅寺跡遺跡第17地点	苗間345-2・10	877	個人住宅	10. 9. 29～10. 10. 2	試掘
37	大井氏館跡遺跡第11地点	大井951-1	200	告別式会場	10. 11. 9～10. 11. 17	試掘
38	本村遺跡第68地点	大井182	302	個人住宅	10. 4. 17～10. 4. 21	試掘
39	本村遺跡第69地点	大井苗間81街区5画地	116	個人住宅	10. 8. 24	試掘
40	本村遺跡第70地点	大井苗間130街区11画地	354	個人住宅	10. 9. 4	試掘
41	本村遺跡第71地点	大井苗間93-2街区3画地の一部	116	個人住宅	10. 10. 12	試掘
42	本村遺跡第72地点	大井苗間114街区14画地	210	アスファルト駐車場	10. 11. 12	試掘
43	本村遺跡第73地点	大井苗間115街区1画地の一部	156	個人住宅	10. 11. 12	試掘
44	本村遺跡第74地点	大井苗間108街区2・3・6・7画地	1,495	共同住宅	11. 1. 11～11. 1. 19 (11. 2. 8～11. 2. 17)	試掘後遺跡調査会で本調査
45	本村遺跡第75地点	大井苗間99街区1画地	224	個人住宅	11. 1. 18	試掘
46	東台遺跡第30地点	大井640-1	1,330	砂利敷駐車場	10. 11. 4～10. 11. 12	試掘
調 査 面 積 合 計			25,395			

第3表 1998年度大井町遺跡調査会による埋蔵文化財調査一覧

	遺 跡 名	申 請 地	面積 (㎡)	原 因	調 査 期 間	試 掘 期 間
1	亀久保堀跡遺跡第10地点	東久保区画整理地内	258	区画整理道路	10. 5. 20～10. 5. 21	
2	亀久保堀跡遺跡第17地点	東久保区画整理地内	342	区画整理道路	10. 10. 21～10. 11. 30	
3	東久保遺跡第11地点	東久保区画整理地内	440	区画整理道路	10. 7. 14～10. 8. 6	
4	東久保遺跡第12地点	東久保区画整理地内	162	区画整理道路	11. 1. 19～11. 1. 21	
5	東久保西遺跡第3地点	東久保区画整理地内	1,452	区画整理道路	10. 6. 1～11. 1. 20	
6	東久保遺跡第9地点	亀久保279、280	2,117	共同住宅	10. 3. 1～10. 5. 18	9. 8. 18～9. 8. 28
7	東久保西遺跡第6地点	東久保12街区1・2・10画地	1,959	店舗	11. 2. 24～11. 3. 1	11. 2. 9～11. 2. 15
8	神明後遺跡第9地点	苗間310-1	218	共同住宅兼自家用車庫	10. 9. 14～10. 10. 15	10. 9. 1～10. 9. 11
9	苗間東久保遺跡第20地点	苗間637-18・19	664	分譲住宅	10. 6. 18～10. 8. 13	10. 3. 18～10. 3. 24
10	本村遺跡第65地点	大井110-2	391	東原小学校増築工事	10. 4. 16～10. 5. 21	10. 3. 6～10. 3. 13
11	本村遺跡第74地点	大井苗間108街区2・3・6・7画地	1,495	共同住宅	11. 1. 11～11. 1. 19	11. 1. 11～11. 1. 19
調査面積合計			9,498			
東久保区画整理事業に伴う発掘調査面積合計			2,654			
第2表に掲載した地点を除いた調査面積合計			5,826			

第4表 その他の立会い調査一覧

	遺 跡 名	申 請 地	面積 (㎡)	原 因	処 置
1	鶴ヶ舞遺跡	鶴ヶ舞1-19-9	687	共同住宅	工事立会い
2	亀居遺跡	東久保8街区2画地	60	個人住宅	範囲外調査不要
3	東久保遺跡	東久保25街区1画地	318	共同住宅	範囲外調査不要
4	東久保南遺跡	東久保59街区7画地	52	共同住宅	富士見市で調査
5	西ノ原遺跡	大井苗間57街区5・6・7画地	301	店舗	101地点として調査済
6	中沢前遺跡	大井苗間32街区2・3画地	741	個人住宅	盛土のため調査不可
7	苗間東久保遺跡	苗間621-10	100	個人住宅	工事立会い
8	西台遺跡	大井897-14	1,000	農地改良	開発申請取り下げ

XIII 本村遺跡の調査

1 遺跡の立地と環境

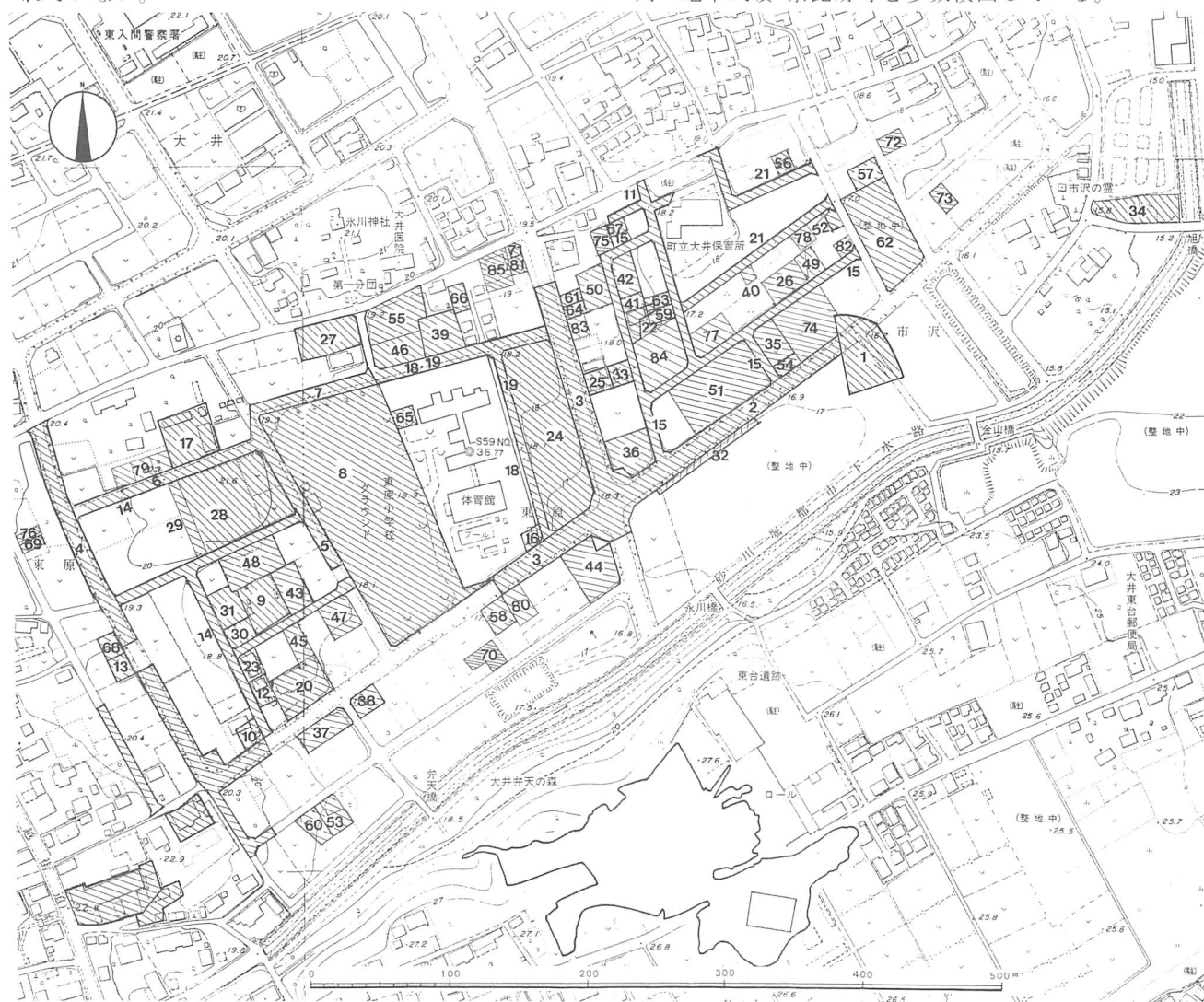
本村遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の南西約800m、砂川堀の左岸で標高15～20mに位置する。遺跡内には旧砂川の流路であった埋没河川が幾筋も認められ、それに取り残されるように微高地が存在する。砂川堀は狭山丘陵外縁に湧水を成し、武蔵野台地上を南西から北東に流れて新河岸川に合流する。

砂川堀の流域には多くの遺跡で、旧石器時代からの人々の活動の跡をみることが出来る。現在においても砂川の果たす役割は当時にも増して大きいものであるが、残念ながらその役割は大きく異なり、用水機能としての砂川から排水機能の砂川堀と言うのが現在の状況である。町内を流れる砂川堀も河川改修により、その姿を都市下水路に変え、往時を忍ばせる面影は残されていない。

周辺の遺跡では、砂川堀を挟んで縄文時代中期の大集落と奈良平安時代の製鉄関連遺跡である東台遺跡、旧石器時代の大井戸上遺跡と西台遺跡が位置する。左岸には旧石器時代～縄文時代の小田久保遺跡、旧石器時代～近世の大井氏館跡遺跡が位置する。本遺跡が中世から近世にかけての中心集落とするならば、大井氏館跡遺跡は近世川越街道整備以後の中心的な宿場および集落とみることができる。

いずれにしても、町内における砂川堀流域の本村遺跡周辺は旧石器時代から現代にかけて良好な生活・住環境であったことがわかる。

2000年3月現在85ヶ所で調査し、旧石器時代の礫群・石器ブロック、縄文時代の落とし穴・炉穴、中世～近世の掘建柱建物・方形竪穴状遺構・井戸・溝・柵列・地下式墳・茶毘跡等を多数検出している。



第124図 本村遺跡の地形と調査区 (1/5,000)

cm、深さは底面から10cmを測る。

【風倒木痕】落とし穴と直交して風倒木痕があり、落とし穴より新しい。平面形態は楕円形で、規模は上幅136×79cm、下幅96×46cm、深さは確認面から105cmを測る。

3 本村遺跡第69地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より「埋蔵文化財事前協議書」が1998年7月16日付けで町教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の西側縁辺に位置するため、遺跡の範囲確認と遺構の存在確認のため試掘調査を実施することとした。調査は8月21日から幅約1mのトレンチを東西方向に4本設定し、重機による表土除去の後、人力による調査を行った。試掘調査の結果、区画整理事業で付替えられた水路跡を検出し、8月24日調査を終了した。

4 本村遺跡第70地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より「埋蔵文化財事前協議書」が1998年7月29日付けで町教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の南側縁辺に位置するため、遺跡の範囲確認と遺構の存在確認のため試掘調査を実施することとした。調査は9月2日から幅約2mのトレンチを東西方向に2本、南北方向に3本設定し、重機による表土除去の後、人力による調査を行った。試掘調査の結果、縄文土器片を伴うピット(落ち込み)を検出し9月4日調査を終了した。

ピットの平面形態は不整形で、規模は上幅135×90cm、下幅48×36cm、深さは確認面から26cmを測る。出土遺物は無節のR1縄文。

5 本村遺跡第71地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より「埋蔵文化財事前協議書」が1998年10月5日付けで町教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の北側縁辺に位置するため、遺跡の範囲確認と遺構の存在確認のため試掘調査を実施することとした。調査は10月9日から幅約2mのトレンチを2本設定し、重機による表土除去の後、人力による調査を行った。試掘調査の結果、ピット1基を検出し10月12日調査を終了した。

ピットの平面形態は楕円形で、規模は上幅32×30cm、下幅25×17cm、深さは確認面から41cmを測る。

6 本村遺跡第72地点

(1) 調査の概要

調査は駐車場敷設に伴うもので、原因者より「埋蔵文化財事前協議書」が1998年11月6日付けで町教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の東側縁辺に位置するため、遺跡の範囲確認と遺構の存在確認のため試掘調査を実施することとした。調査は11月11日から幅約2mのトレンチを東西方向に3本設定し、重機による表土除去の後、人力による調査を行った。試掘調査の結果、ピット(落ち込み)を検出し11月12日調査を終了した。

ピットの平面形態は円形で、規模は上幅120×110cm、下幅25×20cm、深さは確認面から36cmを測る。

出土遺物は後絵付けの磁器茶碗で、近代以降の瀬戸産。

7 本村遺跡第73地点

(1) 調査の概要

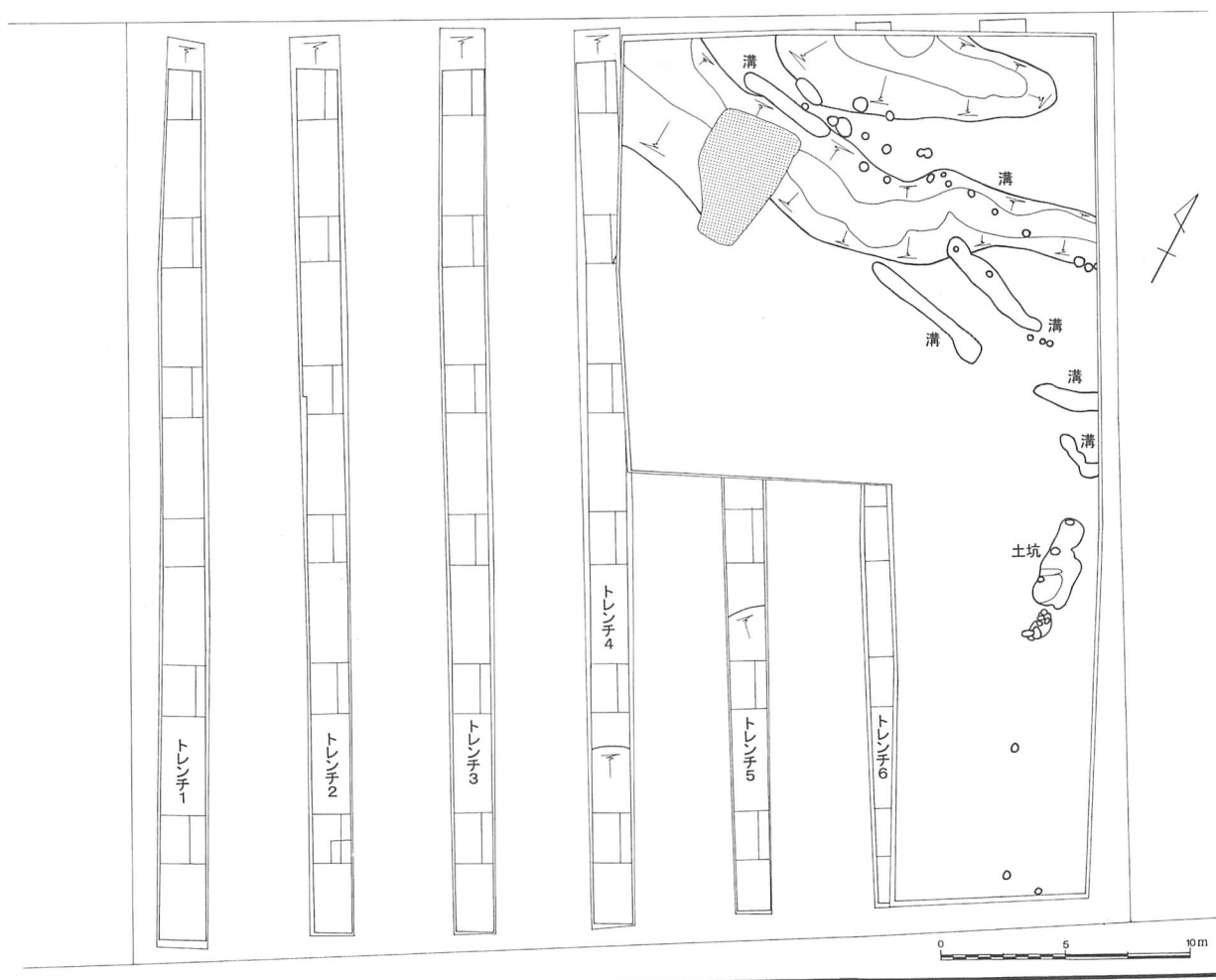
調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より「埋蔵文化財事前協議書」が1998年11月11日付けで町教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の東側縁辺に位置するため、遺跡の範囲確認と遺構の存在確認のため試掘調査を実施することとした。調査は11月11日から幅約2mのトレンチを南北方向に1本設定し、重機による表土除去の後、人力による調査を行った。試掘調査の結果、調査区は約1m厚のロームで盛土されており、地山は水成堆積した黒色土であった。11月12日調査を終了した。

8 本村遺跡第74地点

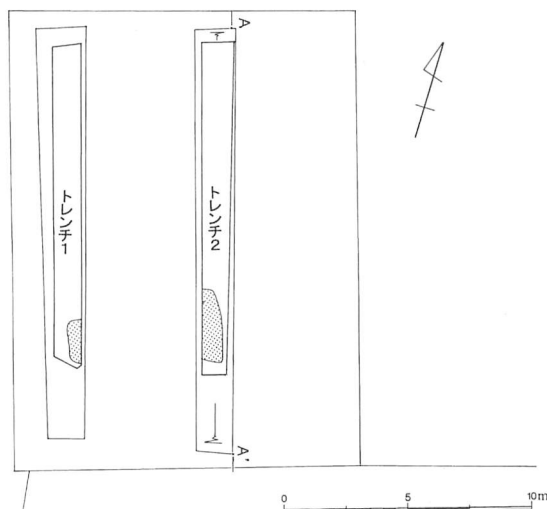
(1) 調査の概要

調査は共同住宅建設に伴うもので、原因者より「埋蔵文化財事前協議書」が1998年12月14日付けで町教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部に位置するため申請者と協議の結果、遺跡の範囲確認と遺構の存在確認のため試掘調査を実施することとした。調査は1999年1月11日から幅約2mのトレンチを南北軸方向に7本設定し重機による表土除去の後、人力による調査を1月19日まで行った。試掘調査の結果、調査区北側に遺構の黒色プランを確認した。このため申請

74地点

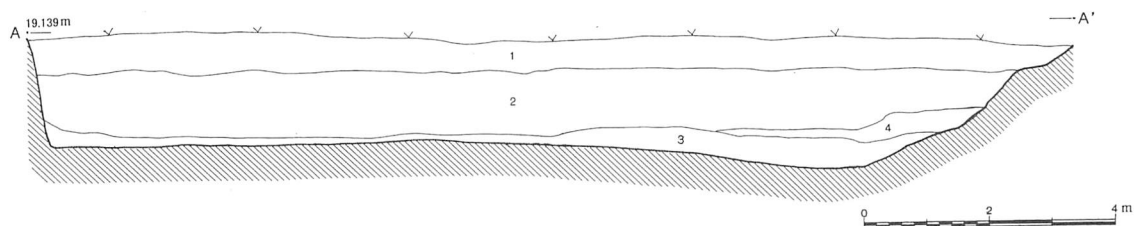


75地点



1. 黒色土、表土
2. ローム埋土
3. 黒褐色土、地山、水成堆積
4. 茶褐色土、締め無、黒色土混入、カクラン

トレンチ2



第128図 本村遺跡第74・75地点遺構配置図 (1/300)・土層 (1/60)

者と再協議の結果、開発の変更などが出来ないため、原因者負担による本調査を実施することとした。

本調査は2月8日から1999年2月17日まで大井町教育委員会生涯学習課を事務局とする大井町遺跡調査会が行い、中世以降の溝3本・土坑2基・柵列1・ピットを検出した。(大井町遺跡調査会で報告書刊行予定)

9 本村遺跡第75地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より「埋蔵文化財事前協議書」が1999年1月13日付けで町教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の北側に位置するため、遺跡の範囲確認と遺構の存在確認のため試掘調査を実施することとした。調査は1月14日から幅約2mのトレンチを南北方向に2本設定し、重機による表土除去の後、人力による調査を行った。試掘調査の結果、調査区は約1m厚のロームで盛土されており、地山は水成堆積した黒色土であった。11月18日調査を終了した。

本村遺跡第71～75地点



本村遺跡第 71 地点 トレンチ



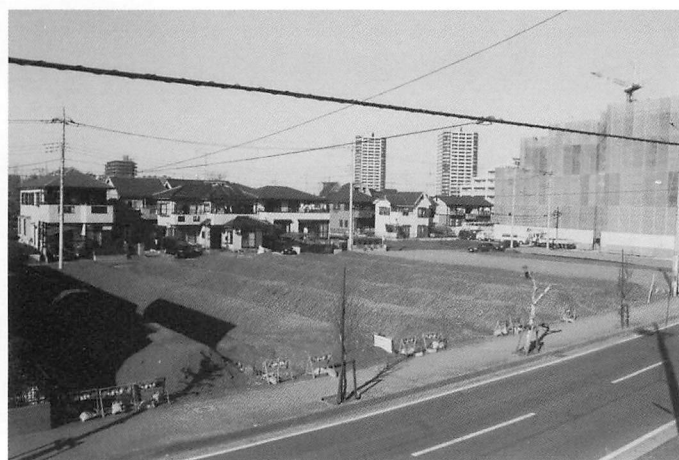
本村遺跡第 71 地点 Pit



本村遺跡第 72 地点 調査区全景



本村遺跡第 73 地点 調査区全景



本村遺跡第 74 地点 調査区全景



本村遺跡第 74 地点 本調査区全景



本村遺跡第 74 地点 調査風景



本村遺跡第 75 地点 調査区全景

凡 例

1. 本書の遺構挿図の指示は以下のとおりである。

- (1) 縮尺はその都度図中に示している。
- (2) 遺構断面図の水糸高は海拔を示す。
- (3) 遺構図におけるscreen-toneの指示、遺物出土状況のドットの指示。



2. 住居跡名は、遺跡内の通し番号である。

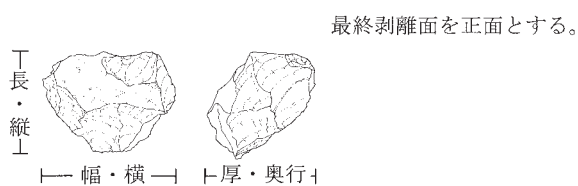
3. 本書の遺物挿図の指示は以下のとおりである。

- (1) 遺物番号は地点ごとに1からはじまる。
- (2) 砥石実測図の断面における矢印の表示は、実線が砥面を、一点鎖線が加工痕の残存面を表す。
- (3) 遺物実測図におけるscreen-toneの指示。

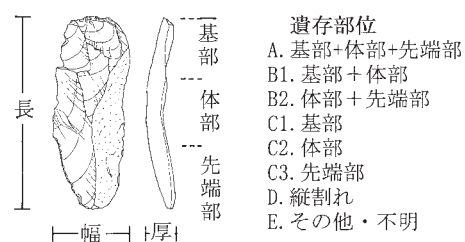


(4) 出土遺物観察表に記載した計測部位及び遺存部位は以下のとおりである。

〈石核〉

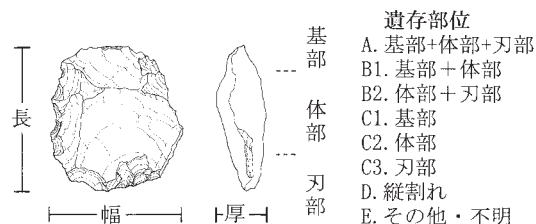


〈剥片・その他の剥片石器およびRF〉



- 遺存部位
- A. 基部+体部+先端部
 - B1. 基部+体部
 - B2. 体部+先端部
 - C1. 基部
 - C2. 体部
 - C3. 先端部
 - D. 縦割れ
 - E. その他・不明

〈スクレイパー(石匙を含む)〉



- 遺存部位
- A. 基部+体部+刃部
 - B1. 基部+体部
 - B2. 体部+刃部
 - C1. 基部
 - C2. 体部
 - C3. 刃部
 - D. 縦割れ
 - E. その他・不明

〈石鏃〉

素材剥片の背面を上面とする。



- 遺存部位
- A. 先端部+体部+両脚
 - B. 先端部+体部+片脚
 - C1. 先端部+体部
 - C2. 両脚+体部
 - C3. 片脚+体部
 - D1. 先端部
 - D2. 体部
 - D3. 両脚
 - D4. 片脚
 - E. 縦割れ
 - F. その他・不明

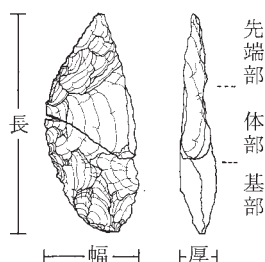
〈ナイフ形石器/尖頭器〉

ナイフ形石器



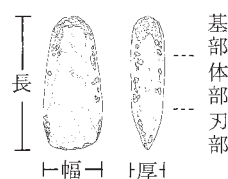
- 遺存部位
- A. 基部+体部+先端部
 - B1. 基部+体部
 - B2. 体部+先端部
 - C1. 基部
 - C2. 体部
 - C3. 先端部
 - D. 縦割れ
 - E. その他・不明

尖頭器



磨製石斧

〈磨製石斧/打製石斧〉



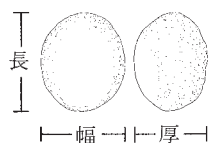
- 遺存部位
- A. 基部+体部+刃部
 - B1. 基部+体部
 - B2. 体部+刃部
 - C1. 基部
 - C2. 体部
 - C3. 刃部
 - D. 縦割れ
 - E. その他・不明

打製石斧

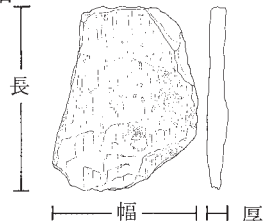


〈磨石/凹石〉

磨石



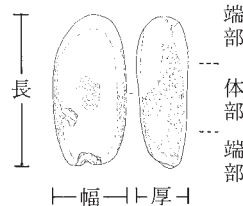
凹石



遺存部位

- A. 完形
- B. 残存率 3/4～
- C. 残存率 1/2～3/4
- D. 残存率 1/4～1/2
- E. 残存率 1/4以下

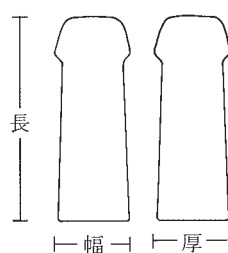
〈敲石/石錘〉



端部
体部
端部

- 遺存部位
- A. 端部+体部+端部
 - B. 端部+体部
 - C1. 端部
 - C2. 体部
 - D. 縦割れ
 - E. その他・不明

〈石棒〉



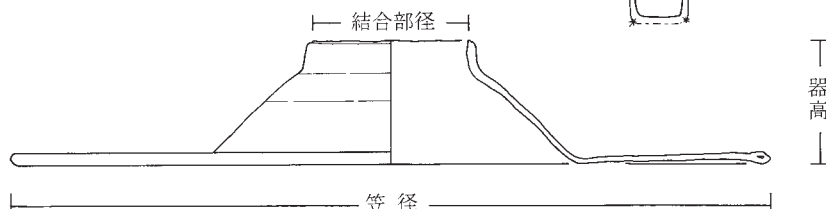
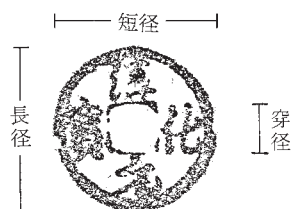
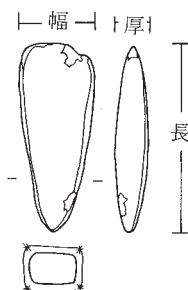
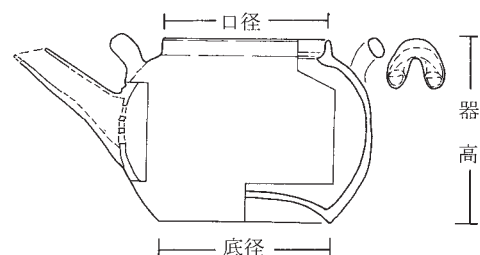
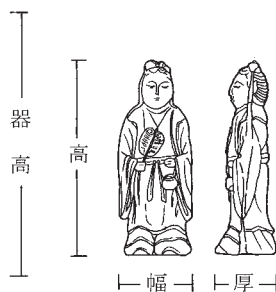
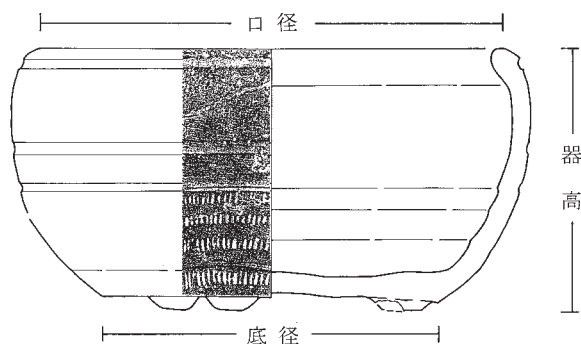
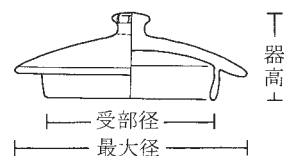
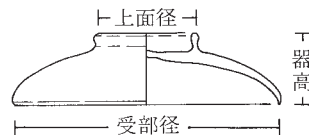
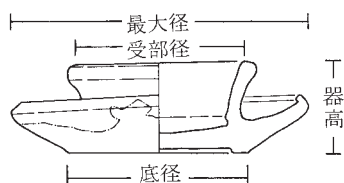
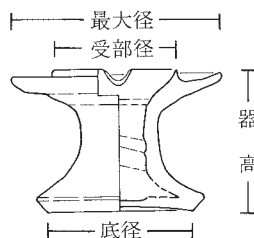
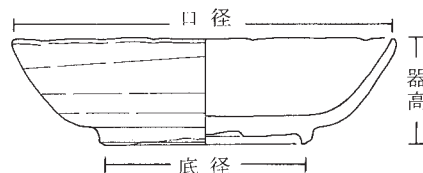
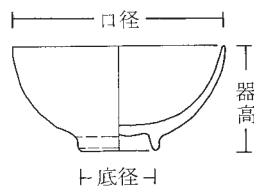
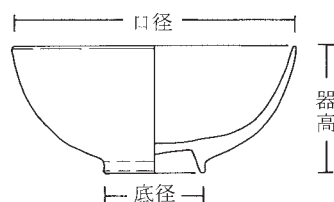
先端部
体部
基部

- 遺存部位
- A. 先端部+体部+基部
 - B1. 先端部+体部
 - B2. 体部+基部
 - C1. 先端部
 - C2. 体部
 - C3. 基部
 - D. 縦割れ
 - E. その他・不明

〈碎片〉

長さ、幅、厚さ ともに最大を計測。

〈陶磁器/土器/銭貨/ガラス製品〉



Ⅱ 本村遺跡の調査

1 遺跡の立地と環境（第4図）

本村遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の南西約800m、砂川堀の左岸で標高15～20mに位置する。遺跡内には旧砂川の流路であった埋没河川が幾筋も認められ、それに取り残されるように微高地が存在する。砂川堀は狭山丘陵外縁に湧水を成し、武蔵野台地上を南西から北東に流れて新河岸川に合流する。

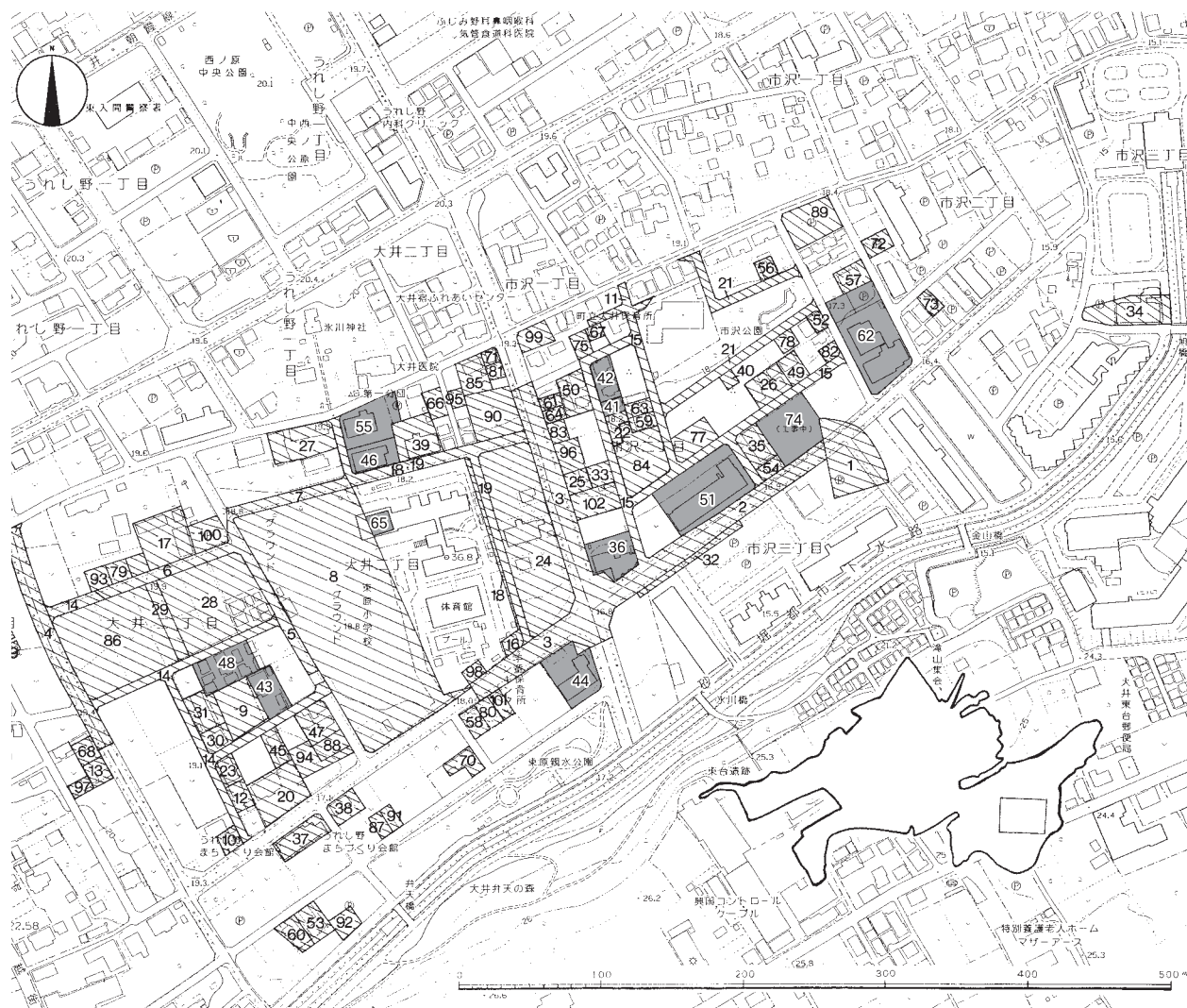
砂川堀の流域には多くの遺跡で、旧石器時代からの人々の活動の跡をみることが出来る。現在においても砂川の果たす役割は当時にも増して大きいものであるが、残念ながらその役割は大きく異なり、用水機能としての砂川堀と言うのが現在の状況である。町内を流れる砂川堀も河川改修により、その姿を都市下水路に変え、往時を偲ばせる面影は残されていない。

周辺の遺跡では、砂川堀を挟んで縄文時代中期の大

集落と奈良・平安時代の製鉄関連遺跡である東台遺跡、旧石器時代の大井戸上遺跡と西台遺跡が位置する。左岸には旧石器時代～縄文時代の小田久保遺跡、旧石器時代～近世の大井氏館跡遺跡が位置する。本遺跡が中世から近世にかけての中心集落とするならば、大井氏館跡遺跡は近世川越街道整備以後の中心的な宿場及び集落とみることができる。

いずれにしても、町内における砂川堀流域の本村遺跡周辺は旧石器時代から現代にかけて良好な生活・住環境であったことがわかる。

2004年6月現在110ヵ所の試掘及び本調査を行い、旧石器時代の礫群・石器ブロック、縄文時代の落とし穴・炬穴、中世～近世の掘立柱建物跡・方形竪穴状遺構・井戸・溝・柵列・地下式坑・茶毘跡、近代遺構等を多数検出している。



第4図 本村遺跡の地形と調査区（1/5,000）

11 本村遺跡第74地点

(1) 調査の概要

本地点は本村遺跡の東端に位置し、西側が第35・54地点、南西側が第1地点、南側が第2地点、北側が第15地点と接している。

調査は共同住宅建設に伴うもので、1998年12月14日付で原因者より「埋蔵文化財事前協議書」が町教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲内に位置するため試掘調査を行った。調査区の南北方向に幅約2mのトレンチを設定し、1999年1月11日から1月19日まで重機による表土除去・人力による精査を行った。

試掘調査の結果、調査区北側に遺構の範囲が確認されたため、大井町遺跡調査会が主体となって2月8日から2月17日まで本調査を実施した。

(2) 遺構と遺物 (第73～75図、第26表、

図版28・29)

検出された遺構は、中世以降の溝4条・柵列1・土坑2基・ピット18基である。溝と柵列はほぼ東西方向

第26表 本村遺跡第74地点遺構観察表

() は残存値、備考欄の写番号は写真図版番号

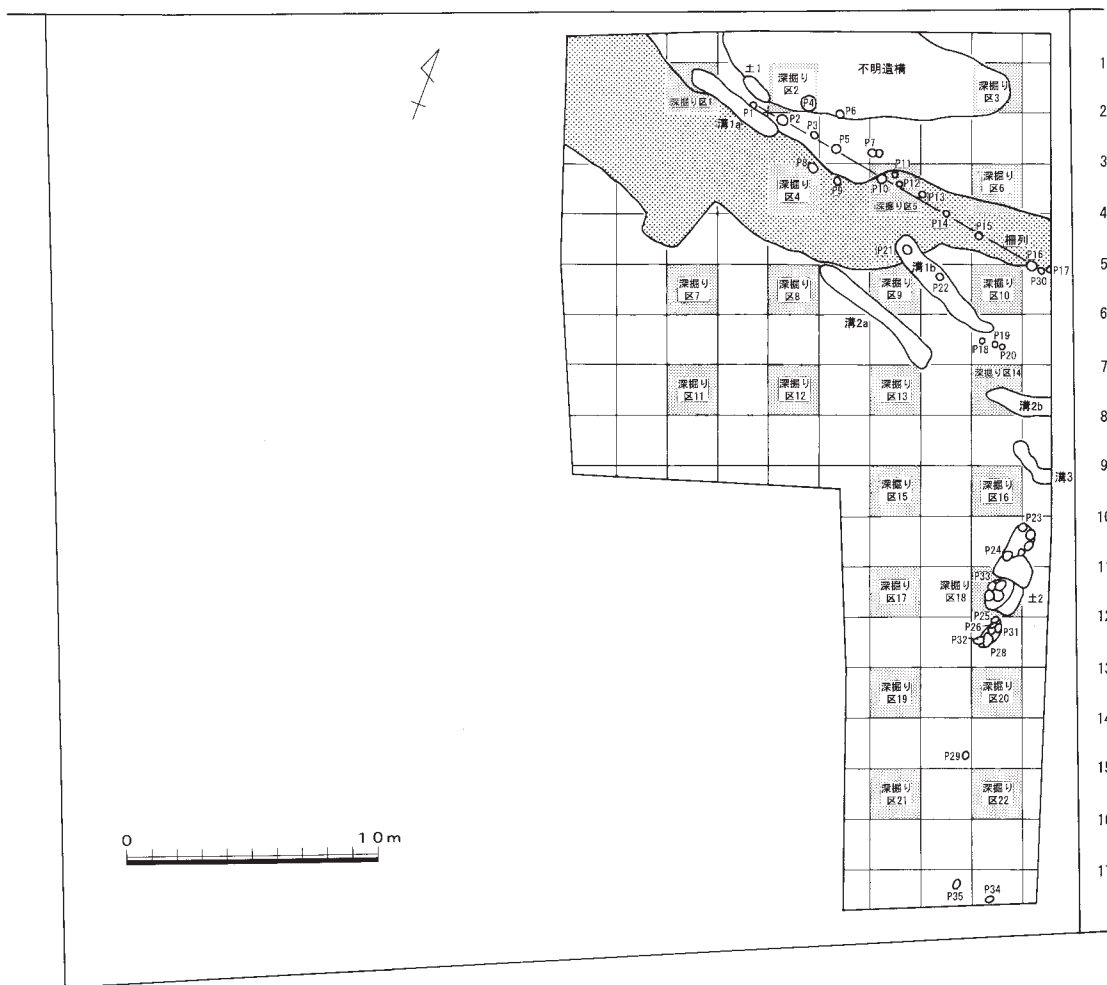
図版番号	遺構名	形状	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	備考
74	溝1 (a)	—	(3.98)	0.80	0.20	写29
	溝1 (b)	—	(5.05)	0.96	0.04	写29
	溝2 (a)	—	(5.62)	0.92	0.08	写29
	溝2 (b)	—	(2.59)	0.90	0.08	写29
75	柵列-P1	円	0.26	0.25	0.29	柵列/写29
	柵列-P2	円	0.30	0.29	0.21	柵列/写29
	柵列-P3	円	0.25	0.22	0.15	柵列/写29
	柵列-P5	楕円	0.36	0.32	0.28	柵列/写29
	柵列-P7	瓢箪形	0.56	0.26~0.34	0.34	柵列/写29
	P8	隅丸方形	0.30	0.29	0.40	写29
	P9	楕円	0.36	0.30	0.21	写29
	柵列-P10	三角形?	0.34	0.24	0.35	柵列/写29
	柵列-P11	円	0.25	0.22	0.20	柵列/写29
	柵列-P12	隅丸方形	0.22	0.18	0.12	柵列/写29
	柵列-P13	円	0.18	—	0.20	柵列/写29
	柵列-P14	楕円	0.27	0.21	0.12	柵列/写29
	柵列-P15	三角形?	0.28	0.20	0.18	柵列/写29
	柵列-P16	楕円	0.51	0.43	0.19	柵列/写29
74	溝1 b-P21	円	0.30	0.24	0.10	溝1 b/写29
	溝1 b-P22	円	0.34	0.27	0.18	溝1 b/写29
75	柵列-P30	楕円	0.38	0.28	0.24	柵列/写29

を主軸とする。また、溝1と溝2は一部分並行するが、双方の東端がやや北へ屈曲する。並行している部分の間隔が約90cm (3尺) ということからみると、関連する遺構の可能性が高い。

なお、本地点において遺物は出土していない。

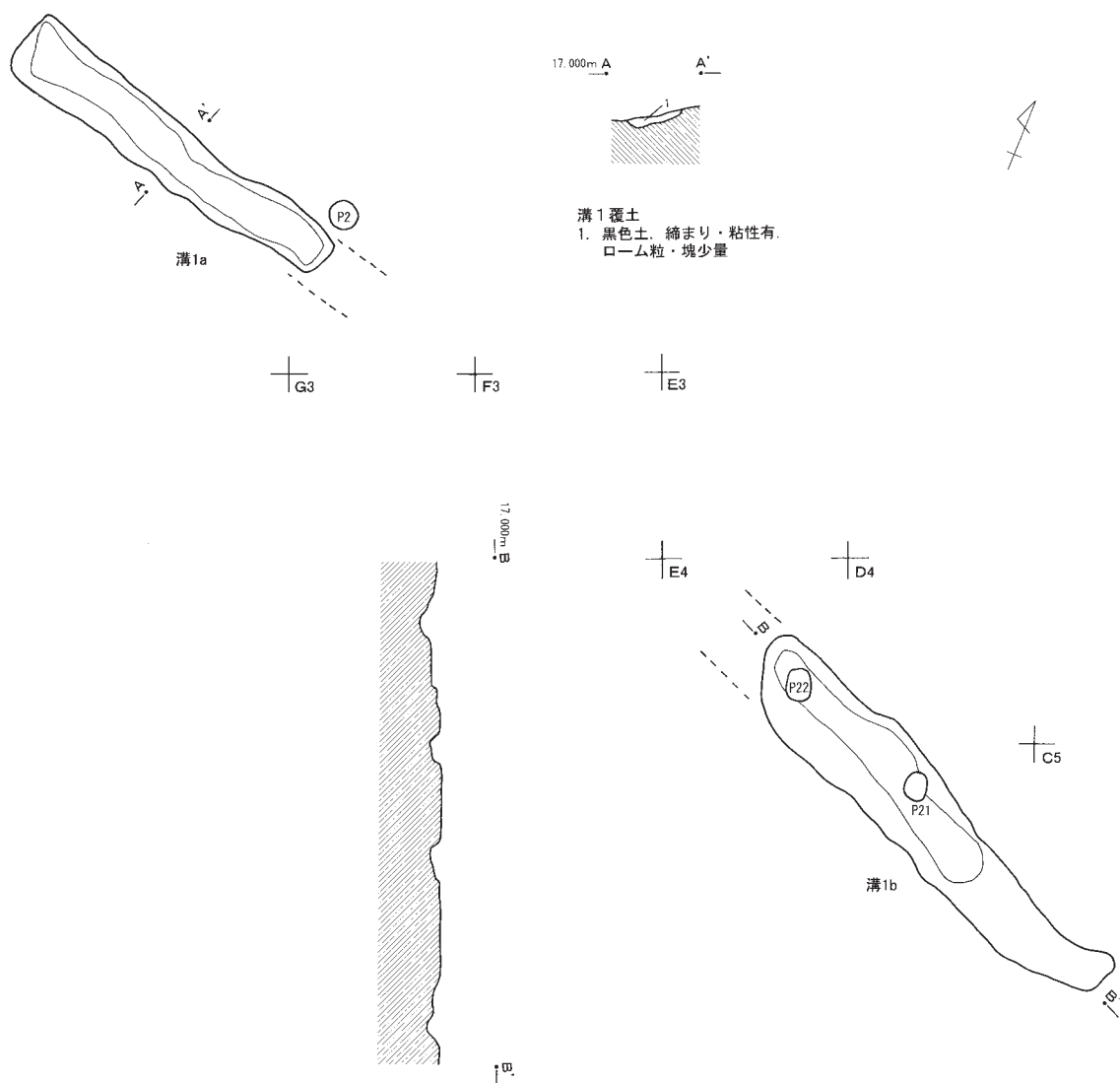
(鳥越多工摩)

J I H G F E D C B A

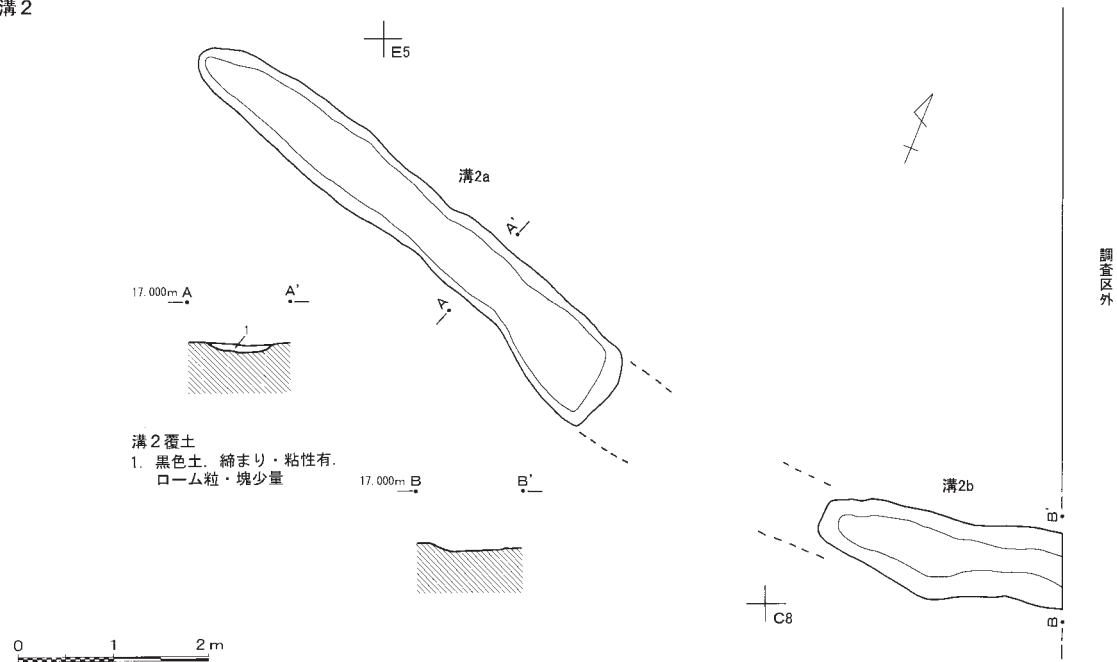


第73図 本村遺跡第74地点遺構配置図 (1/300)

溝 1

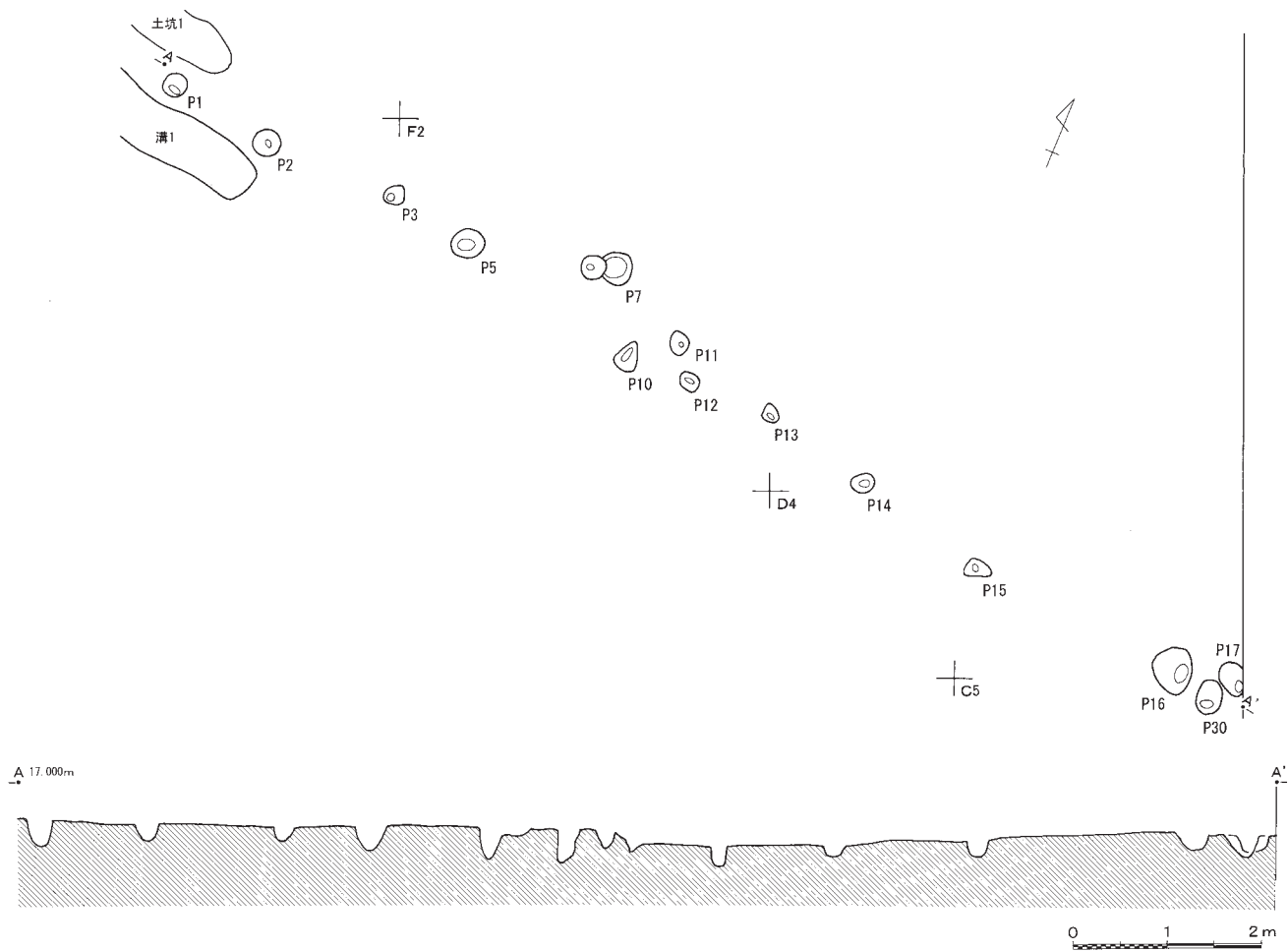


溝 2



第74図 本村遺跡第74地点溝 1・2 (1/80)

柵列



第75図 本村遺跡第74地点柵列 (1/80)



本村遺跡第65地点礫群 4 (上)・5 (下) 遺物出土状況



本村遺跡第65地点礫群 4 遺物出土状況



本村遺跡第65地点礫群 5 遺物出土状況



本村遺跡第65地点礫群遺物出土状況



本村遺跡第65地点土坑 1



本村遺跡第74地点調査区全景



本村遺跡第74地点調査区近景



本村遺跡第74地点土坑 1



本村遺跡第74地点土坑 2



本村遺跡第74地点溝 1 (右)
・ 2 (中上下) ・ 3 (左下)



本村遺跡第74地点溝 1



本村遺跡第74地点柵列



浄禅寺跡遺跡第10地点遺構確認状況



浄禅寺跡遺跡第10地点北側



浄禅寺跡遺跡第10地点調査区南側



浄禅寺跡遺跡第10地点土墳100